

1 教育・研究目的

大学の教育研究上の目的に関すること

■和歌山大学の目的及び使命

国立大学法人和歌山大学が設置する和歌山大学は、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成することを使命とする。(和歌山大学学則第1章第1条)

■大学の基本的な目標（中期目標前文）

和歌山大学は、高野・熊野世界文化遺産など豊かな歴史と環境に育まれた和歌山県唯一の国立総合大学として「地域を支え、地域に支えられる大学」であるとともに、持続可能な社会の実現に寄与することを宣言する。

その実現のため、3つの基本目標を掲げる。

1. 和歌山大学は、現代の学生の、青年期に至る人間形成上の諸課題を深く認識し、教養教育、専門教育によって「生涯学習力」を培った市民・職業人として社会に参加し、その発展に寄与できる人間を育てる。
2. 和歌山大学は、紀伊半島を含む黒潮文化圏という歴史、自然、経済、文化を活かした研究活動によって創造された知見を活かし、地域から日本と世界の発展に寄与する。
3. 和歌山大学は、教員の多様な問題関心に基づく諸活動を尊重し、職員の主体的な職務遂行を支援、学生が高度な理論と実践力を修得するとともに「学生満足」が充足される大学生活を送ることができるよう支援を強化する。また、教員・職員・学生相互の信頼関係のもとでの協働と参画を通じて、「自主・自律・共生の気風にあふれる大学」であることを目指す。



■和歌山大学 2013～2015 行動宣言

国立大学法人和歌山大学は、この間第2期(2010年4月～2016年3月)の中期目標・中期計画に基づいて教育、研究、大学経営を展開してきました。

特に2011年1月以来、第2期中期目標・中期計画の重要諸課題を絞り込んだ「2011-2013 行動宣言」は、和歌山大学改革のシンボルとして学内外の大きな共感をえて、予算獲得も含めて多くの成果を上げました。

2013-2015年行動宣言は、前宣言の成果・到達をふまえ、第2期後半期の焦点的課題を明示したものです。和歌山大学は、この8つの課題の実現を強く意識しつつ、全構成員の参画と協働で第2期中期目標・中期計画の諸課題を総合的に実現するべく大学経営を遂行します。

これまでの研究成果の蓄積及び専門教育の深化と連動しつつ、 時代と社会が求める深い教養と、自ら考え、自ら行動し、 他者とともに問題解決に取り組むことのできる実践力をもつ人間を育てます。

- ①各学部・研究科における特色あるカリキュラムの実践とともに、2012年10月には教養教育に責任を持つ組織として「教養の森」センターを設置し、本格的な教養教育改革に着手しました。大学の構成員(教員・職員・学生)間の連携強化を図りつつ、2014年4月からの教養科目の再編成を目指します。
- ②キャリア支援・キャリア教育、国内外のインターンシップなどにおいても、問題解決に取り組むことのできる実践力の養成に努めました。今後は、アクティブラーニングなどの手法を導入するとともに、学部・専門領域を超えた協働型の教育プログラムの開発に取り組みます。
- ③学生の異文化理解力を養うために ASEAN 諸国における体験型学習プログラムの拡充を図るなど、学生が主体的に学び続けることができる環境づくりやそのための教育組織・体制の整備を行います。

教育・研究・地域貢献を三位一体として

『地(知)の拠点形成事業(COC)』に取り組み、学生が大学での学びを通して地域の課題等の認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる学生を育成するとともに、地域再生・活性化の拠点となる地方国立大学を形成します。

- ①「地域を支え、地域に支えられる大学」として、これまでに取り組んで来た教育・研究・地域貢献に関する知識と経験を生かし、和歌山圏域の抱える人口の減少や高齢化、地域産業の活力の低下などの課題解決のため、個人・学部の枠を越えた全学的取り組みとして『地(知)の拠点形成事業』を展開します。
- ②本事業を和歌山大学の重点事業のひとつとして、これらに取り組む学内組織・教職員及び地域における関係機関、企業、NPO法人等を積極的に支援します。
- ③本事業における研究及びフィールドワークなどの成果に基づき、新たな学生の教育プログラムを構築します。

和歌山大学の教育・研究拠点の整備を進めるため、図書館の施設・設備・機能をさらに充実させるとともに、教養教育、わかやま学、グローバル教育などの連携を深め、和歌山に育ち世界に羽ばたく優秀な人材の発信基地とします。

- ①学生が集まる場所、主体的な学習の場所として、図書館を活性化するため、施設の増・改築、設備の充実などを行うとともに、教養科目の「教養の森ゼミナール」を図書館内で開講するなど教養教育との連携を図ることなどにより、図書館機能を強化しています。
- ②今後とも、各学部における専門教育の深化、教養教育改革の拠点として、また紀州経済史文化史研究所を中心とした『わかやま学』の充実、国際教育研究センターを中心としたグローバル教育の進展とも連動しながら、さらなる教育・研究機能の充実に努めます。
- ③これらの図書館機能の強化により、図書館の利用者数は増加傾向にあります。引き続き、全ての利用者の関心に応えられるレファレンスを重視した図書館運営に努めます。

教育及び地域貢献の基礎となり、和歌山大学という高等教育機関の存立の基盤である研究の充実を図りイノベーションの創出を支援するとともに、学内及び国内外との共同研究や企業・自治体等との研究上の連携を強化します。

- ①観光学研究の中心拠点の構築と世界レベルの研究への発展、文部科学省が策定する「理工系人材養成戦略(仮称)」に対応した研究の充実や大学院への社会人受け入れの促進など、時機に適したさまざまな課題に積極的に取り組みます。
- ②教育組織と教員(研究)組織を分離し、限られた学内資源を有機的連携のもとに有効活用することにより研究交流及び共同研究を促進するなど、研究環境の改善に努めます。
- ③新たな発想を生みだし、それらが成熟した研究プロジェクトに至るまでの過程において、より円滑に研究活動を発展させることができるよう、引き続き、研究組織及び研究支援システム等のあり方について検討します。

和歌山の地域と世界にとって不可欠な防災・災害時支援及び農・林にかかわる教育・研究の充実など地域創造支援事業に全体的に取り組みます。

- ①和歌山という地域の重要な財産である農業や林業および食、健康、環境にかかわる事業の発展に寄与する研究プロジェクトを推進します。
- ②和歌山はもとより、我が国及び世界にとって優先すべき課題のひとつである防災・災害時支援等に関する教育・研究プロジェクトについて全学的な取り組みを進めるとともに、関係機関等との連携を図り、外部の有識者等による委員会を立ち上げつつ、地域全体で推進する体制を構築します。

『ミッションの再定義』を踏まえて、和歌山大学の強みや特色を活かしつつ、社会のニーズに的確に対応した教育・研究体制及び組織を再編し、そのために必要な教員組織及び事務組織の改革を実行します。また大学経営・運営の本質を見つめ、次代を担う人材を養成します。

- ①『ミッションの再定義』により明確化される和歌山大学の強みや特色を活かし、学長を中心として全学的な教育改革の方針及び実現へのプロセスなどを早急に取りまとめます。
- ②国立大学法人を取り巻く環境が大きく変化している中で、社会の要請に対応可能な教育・研究体制を再編するため、学部、大学院等教育組織、センター等共同教育研究組織、事務系組織等の改革を進め、限られた学内資源を有効活用することを可能にします。これにより、学生・教職員がそれぞれメリットを享受できるよう配慮し、努力します。
- ③大学経営・大学運営の本質を見つめ、困難な時代に積極的に立ち向かうことのできる、次の時代を担う人材を養成します。近い将来に大学法人経営に役員として参画できる職員を生み出すこと、合わせて男女共同参画の実現を目指します。

大学が保有する知的、人的、物的な財産を十二分に活用・広報し、小・中学生、高校生が憧れと入学の希望をもち、地域の人々の声援を受け、地域の誇りとなる大学を目指します。

- ①和歌山大学の貴重な財産ともいえるべき、教育、研究、人、施設、文化財などに関する情報の交流を円滑に行うことができるような定期的な研究交流・情報交流などの場を設けます。
- ②それらの情報を積極的に発信し、地域の皆様に愛される和歌山大学を目指します。また、和歌山の人々に「我がふるさとに和大有り」と思ってもらえるよう、和歌山大学ブランドの形成に努めます。
- ③小・中学生、高校生が和歌山大学に対する関心と憧れをさらに抱いてくれるよう、「おもしろ科学まつり」「公開体験学習会」「出前授業」等への参加、「学習補充教室推進事業」の受託、オープンキャンパスの充実、図書館見学の受け入れなどを積極的に推移します。

大学と同窓会等、同窓会等相互の連携を促し、学年・卒業生の生涯を支援します。

- ①和歌山大学は1949年からはじまる新制大学以前からの歴史の中で、輩出された有為な人材、母校への高い誇りを持つ卒業生、同窓生とともに、真の「就業力」形成に取り組み、学生が人生の自己決定をできるよう支援します。
- ②学部ごとにおかれている同窓会、後援会の支部及びそれぞれにおける世代を越えた交流・連携を促進するため、同窓会連携室を設置して具体的な方策を検討・実施します。
- ③自校の伝統と歴史、文化を掘り起こし、自校史教育を学生の教育プログラムに取り込みます。また、継承された貴重な資料等を整理し、広く公開することにより、自校への愛着や誇りを醸成します。



■和歌山大学の教育目的

和歌山大学は、和歌山、南大阪地域の学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成します。このたび、この目的を達成するための教育における3つの方針を策定しました。

●〈学部・大学院 共通〉●

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 学問への探究心にあふれ、課題解決のため意欲的に取り組むことのできる人
2. 明確な目的意識をもつ人
3. 新しいことに積極的に挑戦する意欲をもつ人

●〈学部〉●

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1. 教養教育、専門教育によって「生涯学習力」を培った市民・職業人として社会に参加し、その発展に寄与する能力を備えている。
2. 幅広い知識とコミュニケーションで他者とともに問題解決に取り組む能力を備えている。
3. 獲得した知識や技能を社会に役立てる実践的能力を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1. 豊かな知性と人間性を育み、基本的な学習能力を獲得するため、すべての学生を対象に学生の現状と、時代と社会が求める人間像を踏まえた教養教育を実施する。
2. 専門的知識と実践力を体系的に学ぶために、学部の人材養成に照らした専門教育を実施する。
3. 最先端の研究活動や社会的活動の実施、あるいは教員・学生間のコミュニケーションを通じて、専門的知識を社会に役立てるための教育を実施する。
4. 学んだ知識やスキルを統合し、問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や姿勢を育成する少人数教育を実施する。
5. 国際的視野や異文化理解能力、コミュニケーション能力を養う体験型プログラム等の教育を実施する。

●〈大学院〉●

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1. 各専門分野に通じ、時代と社会が求める高度な専門性と学際性を備えている。
2. 幅広い見識と深い学識を基に、高度な分析能力や応用能力、他者に平易かつ論理的に表現する能力を備えている。
3. 問題解決のために必要な高度の専門知識を自主的に学習し、高い水準で獲得する能力を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1. 各分野に通じ、高度な専門性と学際性を総合的に推進するカリキュラムを実施する。
2. 幅広い見識と深い学識を論理的実践的に自ら追求するため、専門的知識と実践力を体系的に学ぶための専門教育を実施する。
3. 先見性・創造性の伴う思考力と対応力を育成する教育を実施する。
4. 高度な分析能力を身につけ、専門知識、技能を展開して問題解決にあたる能力を培うため少人数による演習形式による授業を実施する。